



『世界に飛び出す みんなの先生』

8月2日(土) 青年海外協力隊 現職派遣教員 帰国活動報告会

平成18年度に派遣され今年3月に帰国された現職派遣教員9名による帰国活動報告会が、JICA札幌とJICA帯広の共催で8月2日(土)に開催されました。70名近くの参加者が集まり、大変盛況な報告会となりました。

国立及び公立学校の先生が教員の身分を保持したまま青年海外協力隊に参加できる「現職教員特別参加制度」(p.3に詳述)。北海道では従来、現職教員の協力隊参加は隔年2名という派遣枠があり、限られた人しか参加できませんでした。平成17年度に派遣枠が撤廃されると、平成18年度北海道から一挙に19名の先生方が協力隊員として派遣されました。その先生たちが今年3月、無事任期を満了し帰国されたのです。

今回、そのうち9名の先生たちにお集まりいただき、派遣国での協力隊体験



ヨルダンでの協力隊経験を語る先生。衣装もヨルダン風

や今後の抱負などについて語っていただきました。また活動報告の一環として行われたポスターセッションでは、それぞれの先生

に写真や展示物などで任国の様子や活動について紹介していただき、参加者からの様々な質問にも答えていただきました。

報告会の最後に、協力隊OBの宮古先生(道立理科教育センター)に講演をいただき、協力隊OBとしての現職教員の活動の可能性と課題などが提起されました。多忙な学校現場で協力隊の体験をどのように活かしているか?今回活動報告をされた現職派遣教員の先生たちも、試行錯誤されているようです。先生方の今後のご活躍を期待しております!

(JICA札幌 市民参加協力調整員 杉山)



ポスターセッションの様子。参加者は興味津々



研修の現場から

～哈爾濱からの研修員が旭川の省エネ住宅技術を学びました～

7月8日から8月2日にかけて、中国・哈爾濱(ハルビン)市の職員2名が旭川の省エネ住宅技術を学びました。これはJICAの草の根技術協力事業(地域提案型)として実施された研修で、旭川市都市建築部の方々作成した計画に基づき、寒冷地における省エネ型住宅の建設に必要な設計・施工監理技術を習得するため、建築現場の視察や講義などが行われました。

研修員の専門分野はそれぞれ違いましたが、自身の専門分野になると一層力が入り多方面から観察し、担当の方々に多くの質問をしていました。毎週末の総合討議では、次々に聞きたいことが出てきて時間が足りないくらいでしたが、旭川市都市建築部の方々の丁寧な対応により回答が得られました。

10月には旭川市都市建築部の2名と民間からの1名が専門家として哈爾濱を訪れ、現地での調査・講習などを行います。その頃、今回の研修員2名が旭川での研修成果をどのように活かし、模索しながら実践しているのか楽しみです。

(国際協力推進員(旭川)石井)



3週間の研修を終えて。

左から葉徳強さん、旭川市都市建築部石井次長、馬紅蕾さん

国際協力推進員(函館)離任のご挨拶～お世話になりました皆様へ～

2008年9月末を持ちまして、離任する運びとなりました。この場をお借りいたしましてお世話になりました皆様へ心から感謝申し上げます。

私にとり、短い期間ではございましたが、地元である道南で多くの皆様に支えられながら、地域の人々と共に学びの時間を共有できましたことを生涯の宝と感じております。

国際協力推進活動は一人ではできません。皆様からのご協力・支えがあつて何倍にも膨らみ結びを持つていく活動であると信じております。

今後も引き続き、道南での活動は続いてまいります。どうぞ、皆様からのご厚情を持って更なる発展をお祈りいたしております。

皆様、本当にありがとうございました。

国際協力推進員(函館)渡邊郁代



国際協力出前講座での一コマ。100人村ワークショップで学生達へインタビューしている場面。